

# ウッディチキン／福井越前

## 『第11回 SUMMER COLLEGE2016』

### 『例会レポート 115』

日 程	2016年8月24日(水)～26日(金)
会 場	『仁愛大学』 (福井県越前市大手町 3-1-1 TEL0778-27-2010)
参加者数	1日目 34名 2日目 87名 3日目 41名
講演会内容	1日目 第1講 金田先生 (仁愛大学人間学部コミュニケーション学科 教授) 第2講 伊藤 豊氏 (ウッディチキン代表・ラポットカンパニー代表) 2日目 北陸読書感想弁論大会 しゃらく 山本さん 高橋さん2名 ウッディチキン活動報告 伊藤代表 第3講 山崎 宣次氏 (ベルウェイ研究所代表) 第4講 織田 友里子氏 (車椅子ウォーカー代表) 第5講 西川 敬一氏 (株式会社ブロックス代表) 3日目 第6講 久保 華図八氏 (BAGZY 代表) 第7講 北田 礼次氏 (Re-office 代表)
宿泊	妙見山歓喜寺 (福井県南条郡南越前町清水 51-1-2 TEL0778-47-2115) 赤星亭 (福井県越前市小松 2-3-22 TEL 0778-22-3230)



### ウッディチキン事務局

文章・写真提供／向井 健介

<http://woodychicken.com>

[info@woodychicken.com](mailto:info@woodychicken.com)

11 回目のサマーカレッジ！今年も福井県越前市にある仁愛大学で開催しました！

蝉が鳴いてない・・・トンボが飛んでる！もう秋やなーと感じつつ残暑厳しい日差しの中 3 日間勉強しました。



## 1 日目

開会

伊藤代表 挨拶

## セミナー 1

仁愛大学人間学部コミュニケーション学科 金田 明彦教授

テーマ「イノベーション」産業革命・情報革命



「人間にしかできない事」「機械にしかできない事」

この2つからイノベーションを考える。

平成の初めから、デザインは何のためか？の議論が起きた。

18 世紀なかばから 19 世にかけて産業革命がおきた。

機械により大量生産の時代になって物質的な豊かさができたが

貧富の差が激しくなり心の貧しさがあつた時代だった。

そこでウィリアム・モリス（モダンデザインの父と呼ばれていた）は、アーツ・アンド・クラフツ運動を起こし、機械でできることはまかして人間にしかできない事を考える。何を創るか考える。きっかけとなった。

「イノベーションとは何なのか？」

こういうものがほしかった。こういう時間がほしかった。こういう場所がほしかった。

というような、提案・提供すること」

最近では、ソニーのウォークマン・アップルのアイフォン・発泡スチロールで作ったドームハウス・ノーズパットなしのメガネ・AI 人工知能（医療・介護・農業・教育・保育）などの紹介

グループワーク（5~6名）

「ブレイン・ストーミング」=発想トレーニング

脳みそ あらし 思いつきをいっぱい出しあう

テーマ「自転車のサドルを再利用しよう」

ルール ①他者を批判しない NG おもしろくない・つままないなど言わない。

②全員対等

③質より量

④出力=思いついたら声に出す。

思いつきが止まったら

① 前の思いつきを複数組み合わせる。

② 出たアイデアをグループに分けて、少ないところに集中する。



参考文献

「発想する会社」 トムケリー 早川書房

「成果を出すイノベーションプロジェクトの進め方」 横田幸信 日経 BP 社

セミナー2

伊藤代表

「幸せな働き方とぼくが考えてる事」



## 熊本地震について

今までの阪神大震災や東北の地震などの経験から2日後から動くことができた。

3つの大きな地震の経験が大きな気づきや学びを与えています。

熊本の地震で、なんと200トンもの物資が2週間で集まった。

これからも今までの経験を生かして、ウディチキンのネットワークで迅速に対応出来るようにしていこう！

今後の支援について、6月4日に久保先生と現地に入り熊本メンバーの方と話し合いの場を作りました。

現状、まだまだ回復のめどが立っておらずブルーテントがたくさんあります。

家屋の被害状況を調べる審査員の数足りておらず、いまだ修繕するか否か前に進めない状況で家がある家族のところで生活をしているスタッフがいます。

とにかく足を運んでみて深刻さがより分かった・・今後も募金活動を続けましょう。

5月末までに集まった180万円の使い道は、美容関係者で被害状況を3段階に分け直接手渡せるよう熊本メンバーに託しました。

## 2016年のテーマについて

イノベーション（革新）

独自性の時代・オリジナル化への挑戦

最近はどこも同じサロンに見える・・

もっとオリジナリティー溢れるサロンづくりをして行こう！

いつの間にか、アジアの勢いがすごい事になっている。逆に見習うところがある。（勉強する姿勢）

今の業界は、大きな分岐点にある。

知らない間に、周りのサロンの事を下に見ている状態になってる。

人を育てる環境が大切。幹部を育てる環境。どうなりたいのが原点。

年間売上の上位3割の顧客が、7割の売上。

顧客分析をして、それぞれの顧客に対して具体的な提案をしていくことが重要。

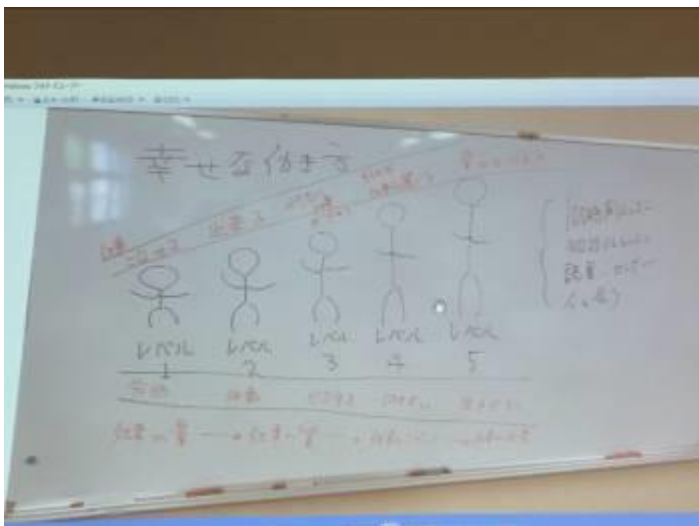
今までのやり方と、変えていかないといけない。

レベル1 ⇒ レベル2 ⇒ レベル3 ⇒ レベル4 ⇒ レベル5

こなせる 出来る やりたい事ができる 好きな仕事を選べる 幸せな働き方

労働 仕事 ビジネス 働きがい 生きがい

幸せは、感じる事。



今具体的な、ヘアスタイルレッスンカリキュラムを作っている。  
年間通して、スタイルを提案していく。いい提案をして、幸せな働き方ができる。

## 1日目懇親会

みんなで、よき時間を過ごせました。



## 2日目

### ●ウッディ北陸 読書感想弁論大会

課題図書 「一生折れない自身の作り方」 青木仁志著 アチーブメント出版

- ・しゃらく 戸出店 山本さん
- ・しゃらく となみ店 高橋さん

代表で、上記2名の方に発表していただきました。



## ●フィリピンアエタ族ブライダルボランティアプロジェクトの報告



伊藤代表 パパス佐藤さん クンクン宮前さん ナップヘア安井さん

アエタ族という民族は、人口5万くらいのフィリピン先住民族で今から約400年前までは低地に住み暮らしていましたがフィリピンをスペインが植民地支配した際に争いを避け山に移住して山に住み狩猟と移動式焼き畑農法により暮らしていた民族です。

ところが1991年のピナトゥボ火山の大噴火で山に住めなくなり町に降りてきました。

ピナトゥボ大噴火とはどれくらい大きな規模だったかという噴火の火山灰が60メートルつもり、その煙は地球1周し地球の温度が1年間0.5度下がったといわれるくらいの大噴火です。当然のことながら避難しなかったアエタ族の民も多く亡くなりました。噴火によって失った森林には獲物もいなくなり、街で何とか生計を立てなければなりません。ところが色黒、低身長、ちりちりの髪の毛…、言葉も違えば生活習慣も違う山の民…、彼らを待ち受けていたのは差別でした。最低限の賃金すらもらえない、最低層の貧民になり、ゴミ拾いや建築作業、物乞い…、生き残るための石にしがみつくような生活をしてきました。

噴火から25年を経て、山の生活を知らない若い世代のアエタが育っています。言われなき差別に耐え、わずかな賃金を貯めて人並みの生活をしようと奮闘しています。

そんな若いアエタ族も華やかな結婚を夢見るようになりました。ところが一般的なウェディング関係の業者はアエタ族を敬遠します。十分な支払いが期待できないこと、何よりも汚いと思われるアエタにウェディングドレスを貸す業者はありません。…ならば、自分たちで貸衣装を開業しよう！アエタ族のためのウェディングをプロデュースしよう！そんなコンセプトで小さな貸衣装屋ができました。この貸衣装屋の前身はアエタ開発協会というNGOです。最盛期は数千のアエタが集い、自らの権利を主張し、時の政府と戦ったアエタ族による自助組織です。時の流れと共に活動の規模と資産は小さくなり、今現在はこの貸衣装屋のみがアエタ開発協会の独自プロジェクトとして機能しています。それなりのウェディングドレスを集めました。サイズ直しをするためのミシンと技術も手に入れました。…

しかし、いまひとつ冴えないのです。イケてない…、そう言うしかありません。その理由は…、ドレスしかないからでした。ドレスに合うメイクとヘア…、これが今のフィリピンの技術では間に合いません。色黒、ちりちりすぎるヘア、一般的なフィリピン人とは違う容姿、小さな黒人と呼ばれる所以である身体的な特徴を綺麗に見せることができる技術がありませんでした。

今回からのフィリピン・ブライダルボランティアの目標は

「アエタ族のブライダルを現地の人達で出来るようにする」です。

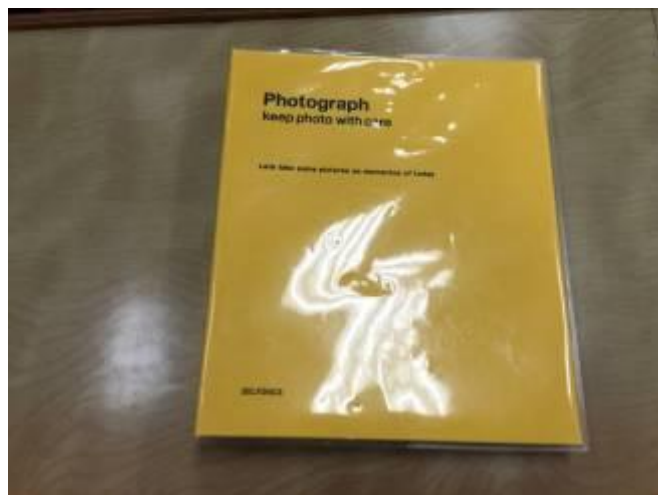
結果

富田一也さんからメッセージをもらいました。

今回は、笑わない人達、さげすまれ続けてきた人達がヘアメイクをし、衣装を着せ1時間後には笑った。自然と

顔を上に向けた。もう衣装を脱ぎなさいと言ったらえーっまだ着たいと言ったのでじゃあ涼しいところで待っていないさいといったらアヤタ族他の皆より一段高い処に椅子を並べて座っていた。自信が出来た瞬間だった。これまで教会の人、医師、大学生のボランティアが来てアヤタ族の娘を笑わせるのに2週間かかった。それを美容師の人達はちょいちょいと触って1時間後喜ばせることが出来る。まさにゴットハンド。きっとこれから山を越えて3時間かけてきれいになりたいというアヤタ族の人が出るでしょう

### クンクの宮前さんのお客様への報告ファイル



### セミナー3

#### 山崎 宣次 氏 (ベルウェイ研究所代表)

##### プロフィール

マーケティング戦略の構想からマネジメントシステム開発など幅広い実績を持ち、サービスマーケティング、小売業マーケティングを中心にコンサルティングや戦略立案支援、教育、講演なども多数実施しています。ウディチキン伊藤代表が師匠として崇拝されている御仁です。



#### 「人生の幸福を得るための4枚のカード」

- ① 「もらう」よろこび
- ② 「できる」よろこび
- ③ 「あげる」よろこび
- ④ 私らしさを人々のために活かす



#### もらうよろこび

- ・「大いなるもの」に支えられて生かされていることを悟った人は、他人のために生きようとする。
- ・針ほどの事を、棒ほどに喜べば棒ほどのおかげがある。
- ・「今」を「ありがとう」ととらえることのできる人は、過去も未来も肯定的にとらえる。
- ・感謝すれば生き甲斐が見えてくる。

#### できるよろこび

- ・どんな人も、潜在的資質は未開拓
- ・魂の成長と技の成長
- ・広げる成長の仕方と究める成長のしかたがある。どちらも大切。
- ・経験を通して、「知る」から「解る」に変わる。

#### あげるよろこび

- ・あげる喜びとは、人のために尽くすことのできる喜びです。
- ・愛を捧げる対象があればそれだけで生き甲斐です。



私らしさを、人々のために活かす

「自己の生命を敬愛すべし、使命を尊重すべし。

自分という人間は、この世の中にたった一人、かけがえのない生命だ。尊く生きよう。

そうして、生きている限り自分には与えられた使命がありそれを果たさなければならない。

天に地に草にも伏して詫びなんと誓いし心まことおこなえ

ダスキン創業者 鈴木清一の言葉

・あなたならではの生命の輝きがある。

#### 4枚のカードの種明かし

人間の本質的幸福感は、人間としてより良く生きていくための遺伝子にあるようです。

人は、成長し変革しながら環境の変化に適応しさらには環境そのものを変えながら生き残ってきた。

だから人間は、変化し続けること成長し続けることに喜びを感じるように仕組まれているようです。

人間は、群れの中で支え合いながら生きてきた。

だから周りの人との関係性が望ましい方向に行動することを喜ぶ。

人から支えられる喜び（感謝）

人を支える喜び（愛、自己犠牲）

といったことも喜べる心が、人類のDNAに組み込まれている。

## セミナー4

**織田 友理子氏** （車椅子ウォーカー代表・NPO 法人 PADM 遠位型ミオパチー患者会代表代行）

プロフィール

1980年生。20歳で遠位型ミオパチーを発症し25歳で結婚。1児の母。2010年にデンマークへ留学。

2014年YouTubeチャンネル「車椅子ウォーカー」配信開始。2015年「みんなで作るバリアフリーマップがGICグランプリ受賞。2015年日本人初米オバマ大統領が創始者のG E S in Nairobiへ参加。



### 「今を生きる」

わかりやすい記事を見つけたので抜粋しています。（ログミー <http://logmi.jp/113107> ）

みなさまこんにちは。織田友理子と申します。今日は私のプロジェクトについてお話をしてみたいと思います。一緒にバリアフリーマップを作ろうというプロジェクトです。私自身は車いすに座っています。

さて……4.5センチ。この意味をみなさんご存じでしょうか？ これは、実は私が自力では、車いすで乗り越え

られない高さの段差であります。10年ほど前までは、私はとても元気でした。ですので、いつの日かこんな日が来るなんて、車いすの不便を味わうことになるとは夢にも思いませんでした。日本だけでも200万人の人々が車いすを使っています。そしてその人たちは、なかなか家から出られずにいます。

というのも、車いすのアクセシビリティが低いからです。知らない場所に出かけていくときにはいろいろなことを調べ、注意深く計画し、そして勇気を振り絞らなければ出かけられません。なので、一緒にマップを作って、どこにアクセシビリティがあるのかというのを見せることができないか、それを考えました。スマホを使って路面のデコボコの情報などを拾えないか、もちろんそれらを写真やメタデータで記録し、トイレの情報なども入れられないか、そういうことを考えました。

PADM（遠位型ミオパチー患者会）はGoogle インパクトチャレンジに応募しました。伊藤（史人）先生という方が島根大学にいらっしゃいます。そしてまた、吉藤（健太郎）先生という方がオリィ・ラボラトリーにいらっしゃいます。一緒に応募して、グランプリをいただきました。これは、NPOを支援して、社会の問題を解決すべくさまざまな技術を使ってより良い世界をより早く作ろうというプロジェクトであります。これはバリアフリーに関する情報を共有しようとするプロジェクトです。世界中の車いすに乗った人々がお出かけした先で、モバイルデバイスを使ってその情報を集めていこうとするものであります。また、言葉を使わずに情報が共有できますので、よりわかりやすい情報共有をすることができます。

アフリカ・ケニアで体験した人々の優しさ

今年の夏の、ケニア旅行についてのお話をしたいと思います。PADMをアメリカ大使館が第6回グローバル・アントレプレナーシップ・サミットにお招きくださいました。私は日本人として初めて参加をさせていただきました。これはオバマ大統領が始められた、グローバル・アントレプレナーシップ・サミットというイベントであります。素晴らしいインスピレーションあふれるオバマ大統領のお話を聞かせていただき、感動いたしました。

私はアフリカに行くのが初めてでした。ちょっと心配はしていました。というのもケニアにおける情報が非常に少なかったからです。けれども、とても安心しました。警備の方々やホテルの方々スロープを毎回持ってきて下さったのです。それからまた運転手さんも、私が車いすで心地よく使えるレストランを探して下さいました。私はケニアの食べ物を試してみました。とてもおいしかったです。それから、ナクル湖国立公園では車いす用のトイレもありました。そんなことは想像もしてませんでしたので、感動いたしました。それから、ナイロビのストリートでも素晴らしいことがありました。車いすの方が私ににっこりとほほ笑んでくださいました。そして私と夫にコーヒーをごちそうして下さいました。車いすユーザーやお年寄りを幸せにするアプリをリリース

障害のある人々についていろいろな話をしました。ケニアには社会福祉の制度が発達しておらず、それに比べれば日本の人々はさまざまな問題を克服できていると思いました。

また、情報があるということで、車いすユーザーが幸せになります。

車いすの人々は障害があるために毎日自由に散歩ということがなかなかできませんし、1人で散歩することができません。誰か、付き添いの人も必要です。したがって、現実的、かつ、詳細な情報は車いすに乗る人々だけでなく、お母さんやお年寄りにも非常に有益な情報だと思いますし、世界で非常に需要が高いと思います。なので、このプロジェクトは世界で非常に大きなインパクトが期待できると思います。多くの人々が、より多様な社会を作れるようになるということです。この単純な簡素化されたバージョンのアプリが、まもなくリリースされることになっています。バリアフリーマップを作るプロジェクト、4.5センチというのはみなさんにとっては大きな数字ではないかもしれませんが、私にとっては非常に難しい数字であります。

ここまで-----

「十年一剣を磨く」という言葉が好き

10年前より、体は大変だけどいろんな事ができるようになった。

人と比べず、今の自分の精一杯を毎日積み重ねて「十年一剣を磨く」

100人いれば100通りの幸せの形があるはずです。

皆さんも、技術を通じてお客様に幸せを提供してください。



すごく聞きやすい講演で、あっという間に時間が過ぎました。(途中息子さんのつつこみも入りながら)明日から私たちにできること5つ教えていただきました。

- ① 電車の中の車椅子スペースを譲る(空けておく)。
- ② エレベーターを譲る。
- ③ 手動のドアを開ける。閉めるときは、後ろの方を確認する。
- ④ 障害者用の駐車スペースを空ける。(車いすの方は、ドアをいっぱい開けるため)
- ⑤ 多目的トイレを使わない。

## セミナー5

西川 敬一 氏 (株式会社ブックス代表取締役)

プロフィール

“私たちは映像で日本を元気にしていきます”をスローガンに、Do itを通じて各地セミナーを開催されています(「日本を元気にする」セミナーも17回開催)。今回は「ワールドカフェ」を体験頂きます。



テーマ 『成長・挑戦とは・・・』

ワールドカフェとは

何人かの会議での討論のやり方(ファシリテーション)の一形式で、与えられたテーマについて各テーブルで数人がまず議論し、次にテーブルホスト以外は他のテーブルへ移動し、そのホストから前の議

論のサマリーを聞いてからさらに議論を深め、これを何回か繰り返した後に、各テーブルホストがまとめの報告を全員にする方法である。参加者が少人数で自由に発言をしながら、他の人々の様々な意見にも耳を傾ける機会を増やすやり方である。

ワールドカフェは1995年に[アメリカ合衆国](#)のファニータ・ブラウン (Huanita Brown) とデイヴィッド・アイザックス (David Isaacs) が偶然の機会に行う状況になり始まったといわれている。<sup>[1]</sup> 日本でも様々な機会に利用されるようになってきている。

- ① 大テーマに関連した「小テーマ」をいくつか投げかけます。  
正解のない問いなのでテーブルの皆さんが意見を出し合って考えてみてください。
- ② テーマについて探求する。
- ③ アイデアを他花受粉する。(いいアイデアが伝染していく)
- ④ 気づきや発見を統合する。

#### ワールドカフェのポイント

- 1 楽しくリラックスした雰囲気の中でまじめなことを語り合う。堅苦しい会議室では良いアイデアは生まれない。会話を楽しむ感じで・・・
  - 2 相手の話をよく聞きその人の気持ちに触れてみる人の話の影響を受けてみる。議論ではなく対話
- 4人のグループに分かれて3ラウンド20分行われました。  
とてもいい雰囲気、いろいろ良き気づきがあったようです。



